

# だより 便利堂 京都

KYOTO  
BENRIDO  
DAYORI

2025 VOL.20  
**7/8**  
盛夏号

アートのある暮らしで彩りを

便利堂ものづくりインタビュー

マイケル・ケンナ

## Michael Kenna さん

写真家●写真とは旅すること



【特集】おすすめ新商品

美術はがきソムリエからの

## 京都はん & 定期便

便利堂 × tupera tupera ●定期便第3弾「琳派—継承の美」新登場！

日本文化の美とともに  
歩み続けて139年





封筒には壁にも飾れるフック穴付



全20種より〈祇園祭はん〉  
「京都 蔦屋書店」で販売中！



〈京都はん〉全20種 直径18cm 各¥1,320

市内20か所のサテライトショップで各1種類の〈京都はん〉を販売中！ 京都便利堂本店では全20種、公式オンラインでは〈舞妓はん〉〈京都タワーはん〉の2種がご購入いただけます。詳しくは本誌14頁をご覧ください。



本誌に記載された表示価格は、すべて税込です。

## 折々の絵はがき

《比叡山》速水御舟  
大正8年 東京国立博物館蔵

夜明け前でしょうか、青い山肌の静けさからは、耳を澄ませばかすかに山の鼓動が聞こえる気がしました。悠然たる山も脈打ち、息づいているのかもしれません。途方もなく大きな身体には計り知れない生命力が秘められているのでしょう。「神秘」とも言い換えられそうなその力は、奥深い山中のどこかにある清らかな泉のように、誰も知らない場所で絶えずこんこんと湧き出しているに違いありません。



表紙の絵はがき：  
絵はがき 〈比叡山〉  
速水御舟 ¥110



ふと、山へ足を踏み入れたときの湿った土や木の匂いが鼻をかすめました。ここには生き物たちの営みがあり、人間が決まてうかがい知ることのできない世界がどこまでも広がっているでしょう。比叡山には延暦寺はもちろん、麓の日吉大社など多くの神仏が祀られています。そしてこの絵を見ると、辺りを払うような威厳に満ちた比叡山そのものもまた神様なのだという気がしてくるのです。

速水御舟は明治末から昭和初まで東京で活躍し、近代日本画に大きな足跡を残しました。40歳で早逝したため、活動期間は20数年と長くありませんでしたが、南画や西洋画など幅広い表現を学び、生涯を通じて常に新たな表現に挑み続けました。

# 京都便利堂 だより

KYOTO  
BENRIDO  
DAYORI

2025 VOL.20  
7/8  
盛夏号

## CONTENTS

アートのある暮らし	02
便利堂ものづくりインタビュー マイケル・ケンナさん	04
季節のごあいさつ ㊟	12
美術はがきソムリエからの定期便	13
【特集】おすすめ新商品 京都はん / 定期便のご紹介	14
Information	16

2025年 7月1日発行 (奇数月発行) 企画・制作・発行 株式会社便利堂  
Director 鈴木 巧  
Chief Staff 中嶋直子  
Staff 西川 愛 / 増尾麻黄 / 渡邊 葵

※本誌記載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。

# アートのある暮らし

●京都はん(祇園祭はん)

日々の生活に美術を取り入れることは  
暮らしに彩りを与えてくれます。

便利堂では、古典の名作から現代の作品まで  
さまざまな美術作品をモチーフとした  
アイテムを取り揃えています。

毎号その中から、おすすめをピックアップして  
美術商品と暮らしす日常風景をご紹介します。

以前からものすごく憧れているにも  
関わらず、ずっと実行できずに憧れの  
ままのことってありませんか？ 私で  
言えば「フルーツポンチ」です。絵本  
の中でもとびきりの幸せな瞬間や楽し  
い宴の最後に登場する、色とりどりの  
フルーツをガラスの大きな器にたっぷ  
り入れてシユワシユワの液体に浸した  
デザート。でもフルーツだけで食べた  
ほうが美味しいんじゃない？とか考え  
てしまつて、あと一歩でいつも実現で  
きないのですよね。結局、いい歳にな  
った今でも“憧れのまま”です。

現実…。時間が無い？ 余裕が無い？  
お金も無い？ いやいや、やる気次第  
でしょ！ やるなら今でしょ!! とり  
あえずビールでも飲んで考えるか、な  
んてのらりくらり過ごす(そして忘れ  
る)夏の夕下がりでです。

ほかに「外国の素敵なお家みたい  
にアートを沢山飾る」とか。海外のイ  
ンテリア雑誌を眺めては、素敵なお家具  
やインテリアに憧れた学生時代。そこ  
には必ずアートが飾られていて、いつ  
かこんな暮らしをしたいと思ったもの  
ですが、今もそんな暮らしとは程遠い

アートをインテリアに思いつつ、  
一歩が踏み出せない方に、京都便利  
堂の新しいカードシリーズ「京都はん  
」はいかがでしょう？ 絵本作家  
tupera tuperaさんが描き下ろした20  
種の「京都はん」を便利堂自慢のコロ  
タイプ技法で風合い豊かに刷り上げま  
した。そのまま飾れる封筒入り。お気  
に入りのレコードジャケットを飾る気  
軽さで暮らしにアートを取り入れてい  
ただけます。季節折々にあわせるも良  
し、目が合った「京都はん」を選んで  
もよし。アートの「憧れのまま」のあ  
なたを京都便利堂が後押しします。

写真：山内崇誠(便利堂写真工房)





2015、北海道にて愛機ハッセルブラッドと ©Tsuyoshi Kato

Michael Kenna (マイケル・ケンナ)

1953年イギリス北西部ランカシャー生まれ。ロンドンで学んだ後、1970年代にアメリカへ移住し現在はシアトル在住。日本を好んで題材にしながら、豊かな詩情を湛えた作品は世界的に高い評価を得ている。これまで70以上に及ぶ世界中の美術館に所蔵され、数多くの写真集を出版している。写真は2023年2月の工房来訪時、刷版作業室にて。

この宗教的な教育には、  
その後の私の写真作品に  
強く影響を与えた側面があります。

——その後、いよいよ写真の道へ進まれました。  
バンバリーで美術基礎を1年学んだ後、ロンドン・カレッジ・オブ・プリンティングに進学し、写真を3年間学びました。フォトジャーナリズム、ファッション写真、スポーツ写真、静物写真、建築写真など、あらゆる種類の写真を、さまざまなカメラやフォーマットで学びました。ですので卒業したときには、競争の激しい商業写真の世界で十分生き残る力は持てるはずでした。

——アートとしての写真を意識する大きなきっかけですね。その後のような経緯で作家の道へ？  
英国に戻ると、商業的な撮影アシスタント兼プリントの焼き付け担当として働き、写真家としても細々と活動していました。70年代後半にアメリカに移り、そこでとても幸運なことに著名な写真家ルース・バーンハート<sup>\*</sup>と巡り合い、すべてが変わりました。私はサンフランシスコで10年間彼女と一緒に働き、彼女のネガからプリントを焼き付けし、彼女の人生哲学を吸収しました。ルースは非常に影響力がある人で、私にとってはお手本のような存在であり、写真の母のような存在であり、そしてとても大切な友人でもありました。私たちは一心同体で仕事に励んだので、数々の彼女ならではのプリント技術は今も私の中に生き続けています。画廊、出版社、コマース・エージェンツといった、極めて不可解な世界を渡り歩こうとしていた若い写真家にとって、ルースは私の道しるべでした。それから数年のうちに、ギャラリーが私の作品を紹介してくれるようになりました。徐々にですが、プリントも売れ始め、展覧会が開催され、出版が実現しました。一步一步でしたが、私は「アートシーン」での地位を確立し始め、それ以来幸いにもまだそこに留まることができています。

——ケンナさんはフィルムカメラで作品を撮っていらっしゃいますが、どんなカメラですか？  
ケンナさんはフィルムカメラで作品を撮っていらっしゃいますが、どんなカメラですか？

校に進学し、そこで7年間学びました。このアップホランドにあるセント・ジョセフ・カレッジは、私に多くの重要な教訓を与えてくれました。この宗教的な教育には、その後の私の写真作品に強く影響を与えた側面があります。例えばそれは、規律、静寂、瞑想、そして目には見えないけれどもそこにまだ存在しているという感覚です。振り返ってみると、この教育は素晴らしいものでしたが、私がもうこの道には進まない<sup>\*</sup>と決心した後は、あまり強く「進路指導」されることはありませんでした。幸い私にはデッサンと絵画の才能があったようで、オックスフォードシャーのバンバリー・スクール・オブ・アートで学ぶことになりました。

——ケンナさんが風景写真を撮り始めたのはこの頃でしょうか？  
ええ、授業と並行して、自分が情熱を注げる趣味として風景を撮っていました。当時はこの分野で生計が立てられるとも、いずれそうなるとも思っていないませんでした。そんな折、学生生活の終わり頃ですが、交換留学生としてアメリカを訪れるという機会を得ました。ニューヨーク州北部のホテルで、ベッドメイキング、窓拭き、草刈り、部屋のペンキ塗りなどのアルバイトをしました。華やかな仕事ではなかったですが、素晴らしい文化体験ができました。というのも、2週間ごとに3日の休みがもらえたので、ヒッチハイクでボストン、ワシントンDC、ニューヨークを訪れ、そのアートギャラリーや美術館で私がイギリスでは体験したことのない文化に触れることができました。写真はファインアートとしてギャラリーで展示されているんですから！これは私にとってまったく新しい体験であり、自分の志を高める大きな励みとなりました。

——アートとしての写真を意識する大きなきっかけですね。その後のような経緯で作家の道へ？  
英国に戻ると、商業的な撮影アシスタント兼プリントの焼き付け担当として働き、写真家としても細々と活動していました。70年代後半にアメリカに移り、そこでとても幸運なことに著名な写真家ルース・バーンハート<sup>\*</sup>と巡り合い、すべてが変わりました。私はサンフランシスコで10年間彼女と一緒に働き、彼女のネガからプリントを焼き付けし、彼女の人生哲学を吸収しました。ルースは非常に影響力がある人で、私にとってはお手本のような存在であり、写真の母のような存在であり、そしてとても大切な友人でもありました。私たちは一心同体で仕事に励んだので、数々の彼女ならではのプリント技術は今も私の中に生き続けています。画廊、出版社、コマース・エージェンツといった、極めて不可解な世界を渡り歩こうとしていた若い写真家にとって、ルースは私の道しるべでした。それから数年のうちに、ギャラリーが私の作品を紹介してくれるようになりました。徐々にですが、プリントも売れ始め、展覧会が開催され、出版が実現しました。一步一步でしたが、私は「アートシーン」での地位を確立し始め、それ以来幸いにもまだそこに留まることができています。

<sup>\*</sup>ルース・バーンハート (Ruth Bernhard, 1905–2006) : ドイツ生まれのアメリカの写真家。アンセル・亚当スに「ヌードの最も偉大な写真家」として讃えられた。



## 便利堂 ものづくり インタビュー

【第20回】

——ケンナさんはイギリスご出身ですが、どんな少年時代でしたか？  
私はイングリッシュ北西部、ランカシャー州の工業都市ウィドネスの貧しい労働者階級の家庭に生まれ育ちました。幼少期の体験は人生に大きな影響を与えるものですが、少年時代の私は5人兄弟なのに、いつもひとりぼっちで近くの公園や通りで自分の考えた冒険をして楽しんでいました。駅や工場、ラグビーのグラウンドや運河の曳舟道、誰もいない教会や墓地などを歩き回るのが好きだったんです。これらの場所は後に写真に撮ると面白いと思うようなところであり、もちろん当時はカメラを使っていまなかったが、その後美術学校や写真学校で過ごした時間よりも、この時期が最終的に私のビジョンに大きな影響を与えたんじゃないかと思っています。

——カトリックの司祭になるため神学校で学ばれたそうですが、それも作品に影響をもたらしていますか？  
この頃は、地元にあるセントピーズカトリック教会で侍祭役の子供として洗礼式、葬儀、結婚式、ラテン語ミサで司祭の手伝いをし、教会の偉大な儀式の一員であることを楽しんでいました。11歳ぐらいのとき、自分も司祭になりたいと全寮制のカトリック神学

マイケル・ケンナ  
**Michael Kenna** さん  
●写真家

手ごろな商品を通じて美術をより身近に親しんでいたきたい——。企画・デザインから制作まで、妥協のない姿勢で取り組んでいる便利堂のものづくりの裏側を、作り手の声でご紹介していきます。  
今回は、モノクロの静謐な風景写真で世界的に知られるマイケル・ケンナさんに、作品制作の背景、日本をテーマにした作品も多いケンナさんが抱く日本への思い、そしてケンナさんのポートフォリオを制作した便利堂コロタイプ工房への印象などについてお話を伺いました。

聞き手：社長室 前田千穂



50年以上前に写真始めてから、ずっと使ってきたアナログのフィルムカメラとレンズにこだわり続けています。現在使っているハッセルブラッドのカメラはもう40年近くも使っていて、試行錯誤を重ねながら信頼を築き上げた、慣れ親しんだ友人たちです。もちろん、カメラは老朽化や使いすぎで時々故障します、私もだけどね。笑同じくらい、あるいはそれ以上の仕事をするカメラは他にもあるでしょう。でも私は自分の仕事道具を変える必要性も欲求も感じてきませんでした。これらのカメラは私のビジョンの延長線上にあるものなんです。

——デジタルカメラをお使いになったことはありますか？

少し試してみたことはありますが、技術的には非常に素晴らしいものだと思います。本当のところ、私が使っている今の携帯電話の方が、年季の入ったハッセルブラッドよりもいい写真が撮れますよ！でも、おそらくデジタルが最もよく知られることになった理由の多く、例えばスピード、解像度、鮮明さ、色の濃さ、そして様々なアプリで画像を瞬時に操作できる無限の可能性などが、逆に私をデジタルから敬遠させてしまいます。私にとつては、高速のF1レーシングカーでAか

コロタイプ・ミニポートフォリオ《北海道 2020》より  
〈ブラックストーンヒルの木〉



## 私は写真とは、 旅をすることだと考えています。

銀塩プリント：  
印画紙に焼き付けた、いわゆるアナログの白黒プリント。  
ゼラチンシルバープリントともいう。

らBに行くようなものなのです。その経験は楽しくスリリングかもしれないませんが、旅の多くの部分、つまり多くの創造性が生まれる回り道や脇道を見逃してしまいませんか。私は写真とは、旅をすることだと考えています。撮影から最終的なプリントに至るまでの、長く、のんびりとした、予測不可能で、常に魅力的な小道を歩く旅なのです。

——銀塩プリント<sup>※</sup>についてはいかがでしょう？

同じような理由で、ちよつと古風ですが素晴らしい伝統である銀塩プリントのプロセスにも強い愛着を抱いています。私は嬉々として暗室で何時間も作業しています。時々自分が、石の塊の中に隠された姿を発見し解き放とうとする彫刻家のように感じることもあります。やりがいがあり、骨の折れる重労働です。でも私は、宝石のような銀塩のプリントの上に解釈を生み出すこの忍耐強いプロセスが大好きです。

——きつと手間暇を惜しまないこと  
でしか見えないものがあるんですね。

私はデジタル写真に反対するつもりはまったくありません。写真家はそれぞれ、自分に最も適した技法や素材を用いて、自分なりの方法でクリエイティブなビジョンを追求すべきだから

は、そこにあるもののほんの一部に過ぎないと強く思ってきました。この視点は、幼少期の宗教的な教育から来ているのだと思います。目には見えないが、まぎれもなくあると信じる存在。幼い頃に見た祭壇の光は、まさにそれを象徴していました。おそらく、この頃の信仰の結果として、私は、単に目に見えるものの複製を作ろうとするのではなく、存在しうるものの暗示を視覚化、映像化することに興味を持ち続けていることに気づきました。

——確かにケンナさんの作品にはそうした気配が感じられます。撮影方法は「長時間露光」だとお聞きしました。

私は70年代中頃から夜に仕事をするようになり、これが長時間露光に魅了されるきっかけになったと思います。夜の撮影はとてもエキサイティングなのですが、それは予測不可能だからです。すぐに露出をコントロールできないですし、フィルムを現像するたび、その結果を見て驚きました。露光している間に世界は変化しています。繰り返しになりますが、その間に何が起これるかを確認すること、例えば地球の動きに合わせて星が空をなぞるのを見たり、飛行機やボート、車がネガに白い線を残していくのをたどったり、動く雲が画角にゆつくりと密度を加えてい

です。とはいえ、若い世代がアナログ写真に回帰したり、少なくともアナログ写真を検討したりするようになってくれたのは喜ばしいことです。私のわがままかもしれないですが、大手メーカーはフィルムや紙、薬品が入手可能なように作り続けてほしいです！どのような写真を撮るにしても、私は「すべて」の写真家にベストを尽くしてほしいと思っています。世界を観察することは、世界に感謝し、大切にすることが良い方法です。私たちはみんなもつとそうすることが出来るはずですよ！

——ケンナさんの作品を見ると「世界はなんと静謐で美しいのだろう」と思わずにはいられません。撮ろうとする風景のどんなところに惹かれてシャッターを切るのですか？

作品についての最初の質問がここからなのは難しいですね！基本的に、私は自然の中にいるのが好きなんです。自然現象を直接観察することは貴重な経験だと思います。満月が地平線から昇り、ゆつくりと弧を描いて天を横切るのを見ることは、とても素晴らしいことです。夜明け前に起きて、木の枝に白い霜が降りているのを見つけることは、とても美しいことです。日々、数え切れないほどの視覚的な宝物を探す多くの機会に恵まれているこ

くのを見たりすることは、とても贅沢で大きな楽しみです。この光、時間、動きの集積は、人間の目にはとらえることができませんが、フィルムには記録することはできます。現実が超現実となるのです。

——作品に人はほとんど登場しません  
が、なにか理由がありますか？

私は写真を撮るとき、人は邪魔だと感じてしまうんです。よく演劇に例えるんですが、何もない舞台は、これから何が起るのか、何が起こったのかを観客に想像させるでしょう。もちろん、これは非常に主観的な考えです。私が好きなワーナー・ビショフ<sup>※</sup>の写真

コロタイプ・ミニポートフォリオ《北海道 2020》より  
〈氷紋、習作1〉



## 私は人と風景の相互作用の記憶や痕跡、 証拠を探しているのです。

——いつもどんな風に撮影されているのですか？

概して、私の作業方法はとてもシンプルです。三次元の世界にある自分にとって興味深いものを探し出し、それを二次元の写真プリントで楽しめるように翻訳・解釈するのです。パターンや抽象性、グラフィックな構図で主題を探します。そのイメージの本質には、人間が作り出した構造物と、風景のより流動的で有機的な要素が、基本的にセットで含まれていることが多いです。私は、神秘的で趣のある場所が好きで、それらはいがいが古びた所ですが、そこでいくつかの（美はたくさん）疑問に対する答えを、暗示されることを楽しんでいるんです。暗示は明示されるよりも重要だと思っています。私は人と風景の相互作用の記憶や痕跡、証拠を探しているのです。

——「暗示」とは？

私はずっと、私たちが見ているもの

ワーナー・ビショフ（Werner Bischof, 1916–1954）：  
スイスの写真家、フォトジャーナリスト



には、雪の中を歩く修道士が写っていますし、私のスタジオの壁に飾ってあるマリオ・ジャコメツリの作品は、神学生たちが雪玉を投げ合っています！数え切れないほどの巨匠写真家の作品には人物が登場していますよね。人のいる風景はとても美しいものです。だから、私が人を登場させないのは私の限界なのかもしれません、不在の存在は私の作品に不可欠な側面なのです。私は人物を撮影することはほとんどありませんが、人が残した空気感や語られるべき物語を探しています。人間の存在、あるいは不在は、私の作品において非常に重要です。

さて、2023年2月の雪が降る寒い日、大きな機械が何台も並び、インキの匂いが漂い、印刷された紙が吊るされているコロタイプ工房へ初めて来ていただきました。初めてご覧になった時の印象を教えてください。

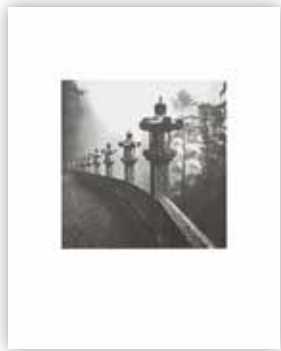
便利堂の工房は、アップホランドの全寮制神学校で学んでいた頃に4年間ボランティアとして働き、最後の2年間は機長を務めていたウォルソー印刷所をちょつと思いつき出させました。印刷所には2台のアラブ社印刷機、紙を裁断するための巨大なギロチンカッター、いろんな書体を取り揃えた活字、そして多くのインキがありました。工

希少な技術を後世に遺したいと考えているのですが、ケンナさんはそのため

にどんなことが大切だと考えますか？

絶滅の危機に瀕する生態系や環境は大きな懸念です。それによって健康が損なわれることも大きな懸念です。デジタル革命が始まったときから、写真が現実とのつながりを失ってしまうのではないかと、私は少し懸念していました。億単位のデジタルアプリケーションが存在し、AIが登場し、私たちはもはや何も確信することができなくなつてしまいました。テクノロジー

により洗練されるにつれて、新しいイメージの見方や作り方が現れてきたのです。写真のまったく新しい世界は、より多くの人々にアクセスできるようになりました。それは素晴らしいことです。時間は止まっていないし、避けられない変化を嘆いてもあまり意味がないと思います。古い技術、例えばレコードのような技術を失う危険性は常にあります。印刷紙や薬品が製造されなくなつたらどうするかとよく聞かれますが、私は別の表現手段を選ぶと答えます。人生という大局から見れば、それで私の世界が終わるわけではありません。私は、便利堂とコロタイプがこれからもずっと続き、その独自性によってさらに強くなっていくことを望み、信じています。しかし、永遠に続



コロタイプ・ミニポートフォリオ《四国》より  
〈寺院の灯籠、徳島 焼山寺、2010〉

私にとって便利堂は、創造性、職人技、伝統、献身、そして苦勞して身につけた技術を真摯に応用する素晴らしい場所です。

房で仕事して過ごす時間はとても好きでしたよ。一人で、時には同僚と一緒に、時間をかけて活字を組み、校正し、印刷をしていました。それは人生のオアシスでした。もちろん、便利堂はもつと大きく、もつと長い歴史を持ち、もつと広大な事業を行っています。が、ここもまた日常からのオアシスであると言つてもいいと思います。私たちの多くがそうであることを知っていますし、また経験していますから。「インキの匂い、吊るされた印刷された紙、何台もの大きな機械」…まさにその通りです。そしてそこには、実際に手作業で仕事を行っている人々がおられます。手や体を使って印刷やプリントのスポット修正を行い、版を準備する人々、コンピューターの前に座っているだけではない人々がね。私にとって便利堂は、創造性、職人技、伝統、献身、そして苦勞して身につけた技術を真摯に応用する素晴らしい場所です。

その言葉に職人みんながどれほど喜ぶでしょう。ケンナさんのミニポートフォリオとして《北海道》と《四国》がコロタイプで制作されています。コロタイププリントの印象を教えてください。

コロタイプのプロセスは、私が個人的に写真の世界に求めているプリント

くものなどありません。後で失うかもしれないものを心配するよりも、今あるものを徹底的に堪能するべきだというのが私からのささやかな提案です。

確かにそこから新しい道が拓けるかもしれませんが。ところでケンナさんには日本各地で撮影された作品が多数ありますが、日本には他の国とは違う特別な魅力があるのでしょうか？

まず、私が最近上梓した日本についての写真集に書いた紹介文を参照するのが一番簡単でしょう(下掲参照)。ここに記した日本への最初の恋心は、私の宝物である北海道を訪れる前のごとで、便利堂の工房に出会うずっと前のことです！

ケンナさんの作品からは風景だけでなく文化や風習、暮らしや宗教にまで思いを馳せていることが伝わってきます。

日本に対する私の感謝の念は深く、言葉では言い表せません。日本の大地には神秘的で素晴らしく魅力的な何かがあります。水と大地の間のいたるところに存在する相互作用においてや、絶え間なく変化する季節や空の中に、それは視覚的に現れているように思えます。地形のスケールがもたらす親近感や、その大地に織り込まれた歴史の

「いくらか郷愁を覚えながらこの古都を36年前に初めて訪れたときのことを思い出している。すべてが新しく、刺激的だった。じっくりこの目で見て、フィルムに収めた。祇園の路地をぶらぶらと歩き、薄暗く、エキゾチックな仏教寺院へ、明るく、色彩豊かな神社へとおずおずと入っていった。儀式的な茶会に出席し、謎めいた漢字が書かれた美しい巻物に驚嘆した。熱い風呂につかる神秘を発見し、川沿いの古い旅館では畳の上に寝た。コンビニで食事を調達し、たどたどしい日本語にも初めて挑戦した。一瞬のうちに、静かに、どうしようもなく、日本と恋に落ちていくのは避けようもなかった。」  
(「JAPAN / A Love Story」より、『日本ラブストーリー』2024、Nazzraeli Press)



コロタイプ・ミニポートフォリオ《四国》より  
〈蠟燭供物、香川 八栗寺、2010〉

の世界の多くの側面を象徴していると感じています。そう、アナログで、時間がかかり、手間がかかります。デジタルプリントのように高度に細分化し効率化しようとはしません。労働集約的なやり方です。これはアナログの銀塩プリントと共通しており、銀塩と同じように、「機械」ではなくプリントを作る「人間」とのつながりを感じるのだと思います。写真プリント、特にデジタルプリントの問題のひとつは、それが写真家から解離する傾向があることだと思います。作品と作者とのつながりを確立し、維持できることが重要だと思います。それは私がすべての銀塩プリントを自分でプリントすることとにこだわり、ひとつひとつのプリントを手作業で何時間もかけてスポット修正する理由のひとつでもあります。たとえ同じものが何枚もあったとしても、それぞれのプリントの個性が感じられるほうがいいと思うんです。

ケンナさんはこれまで世界各地の風景をご覧になる中で、後世に遺すべき景色が失われる経験もなさったのではないのでしょうか。失われたものは二度と取り戻すことができません。産業としてコロタイプを伝承する工房はいまや便利堂含めて2社となつています。私たちは人の手がかかせないこの

奥深さに、私はそれを感じます。日本のどこに行っても、土地に対する深い敬意と尊敬に気づきます。いたるところに存在する鳥居は、神が神社だけでなく、大地、空、水の中に宿っていることを視覚的に象徴し教えてくれます。この信仰体系は、私にとって非常に大切なものであり、私たちの宇宙を尊重し、敬い、あがめることを常に思い出させてくれます。

そこに暮らしているとつい忘れがちになります。

物理的に、日本は私の母国イギリスと似ています。比較的国土は小さく、何世紀も人が住み、海に囲まれ、すべての土地と海辺には物語があるところなど。日本は台風、地震、津波、火山噴火の可能性もあります。土地は生き生きとたくましく、自然の力が強い国です。日本を経験することで、私たちの絶え間なく変化する世界のはかなさと美しさへの気づきが深まると信じています。

せっかく日本に暮らしながら、私たちはまだ日本が持つ本当の魅力に気づけていないのかもしれない。

北海道は、とりわけ魅力的な場所だと私は感じてきました。優しく魅惑的で、危険なまでにワイルドで、絶望的



# 写真と暮らす

コロタイプ ミニポートフォリオシリーズ

ポートフォリオとは"作品集"のこと。京都便利堂のミニポートフォリオは、国内外の著名な写真家の作品をコロタイプならではの味わいで楽しんでいただけるシリーズです。プリントサイズは8×10inch (20.3×25.4cm)。1枚ずつ手にとって鑑賞していただくのはもちろん、ぜひお気に入りの作品を見つけてインテリアに取り入れてください。

## ■ミニポートフォリオシリーズ（現在19作）

マイケル・ケンナ 《四国》  
マイケル・ケンナ 《北海道 2020》  
ファン・ホー 《Selected Works》  
ソール・ライター 《Selected Works》  
ロベール・ドアノー 《Selected Works》  
かじおか みほ 《ミライの記憶》  
白石ちえこ 《島影》  
野村佐紀子 《Träumerei》  
尾仲浩二 《Slow Boat》  
柴田敏雄 《日本典型》  
牛腸茂雄 《Selected Works》  
植田正治 《砂丘》  
植田正治 《遙かなる日記》  
山本昌男 《鳥》  
川内倫子 《Early Works 1997》  
須田一政 《無名の男女—東京 1976-78》  
安井仲治 《安井仲治写真作品集》  
森村泰昌 《卓上のバルコネグロ》  
堀内誠一 《音楽の肖像》

¥6,600～¥13,200

モノクロームの吸い込まれるような陰影と奥行きが  
リラックスする空間に整えてくれます。



マイケル・ケンナ 《四国》  
8作品収録 ¥9,900



—— ケンナさんのミニポートフォリオは「日本4部作」となる予定と聞きました。残すところ《九州》《本州》の2作品ですが、便利堂とのものづくりについて聞かせてください。

便利堂との仕事を心から楽しんでいます。プロとしても個人としても、非常にやりがいのある、満足のいくコラボレーションです。次の2作品のプロジェクトを大いに楽しみにしています。便利堂のみなさんが取り組んでくれたすべてに対し、おひとりおひとりに感謝申し上げます！ 我々みんなへの励ましの言葉として「がんばります！」という言葉を贈ります。

—— ありがとうございます！ 6月からはフランスでケンナさんの回顧展※《Haikus d'argent (銀の俳句)》が開催されます。会場では、この展覧会を記念して限定制作されたコロタイププリント《Waterfall (瀧)》が展示販売されます。《四国》シリーズからの1点ですが、この作品を撮影したきっかけを教えてください。

2003年11月の私の50歳の誕生日に、四国八十八ヶ所巡礼の旅に出ることにしました。全行程を歩き通すには半年ぐらい必要ですが、残念ながらその余裕はなかったため、少しズルをして、車を使って1ヶ月で回りました。それでも、深く感動し、忘れられない体験となりました。各寺院では、真言を唱え、祈り、ご朱印をもらい、そして目に入るものは何でも写真に収めました。この小さな瀧は、11番目札所の藤井寺(徳島県)で見つけました。寺の池に流れ落ちる水の音を聞きながら、長時間露光で写真を撮ったのを覚えています。静かに瞑想するような、素晴らしいひとときでした。今、出来上がったプリントを前にして、あの特別な場所と穏やかで安らぐ満ち足りた豊かな瞬間がありありと思い出されます。

—— 完成したプリントの印象はいかがでしたか？

マイケル・ケンナ回顧展  
Haikus d'argent, l'Asie photographiée  
(銀の俳句、撮影された東洋)



2022年11月に作品をフランスに寄贈したことを記念して、アジアで撮影した作品のみによる初の回顧展  
2025年6月11日から9月29日まで  
パリ・フランス国立ギメ東洋美術館にて開催中

ジョン・シャーカフスキー (John Szarkowski, 1925-2007)  
アメリカの写真家、学芸員、歴史家、評論家。1962年から1991年まで、ニューヨーク近代美術館 (MoMA) のディレクターを務める。1978年、MoMAを皮切りに全米8か所を巡回した写真展「Mirrors and Windows」をキュレーションした。

コロタイプ・プリント《Waterfall (瀧)》 限定75部



「嶮風 (ケンナ)」  
ギメ東洋美術館での回顧展を記念して便利堂で制作した落款印



予想通り、そして嬉しいことに、大変感銘を受けました。紙は手触りがよくエレガントで、コロタイプは深みのあるインキの黒が美しく、立体感がありました。これらのプリントの下に自分の名前を記すことを誇りに思います。

—— 展覧会をご覧になる方にどのように楽しんでいただきたいですか？

私は、どのように鑑賞するかは完全に各個人に委ねられていると考えています。どう見るべきかを設定することが私の特権とは思っていません。私の写真は、招待状や誘い水のようなものだと思っています。ジョン・シャーカフスキー※が語るように、写真は鏡であると同時に窓であり、世界を眺めると同時に自分自身の内面を見つめる機会を与えてくれます。あらゆる体験は、それぞれ個性的で個人的なものかもしれませんが、私は見る人を、視覚的な体験の入口へと誘うだけなのです。そこで日常生活に戻るまでのしばしの間、自身の個性や記憶に触れ、イメージレーションを働かせ、その間少し道に迷うかもしれませんが、ひよっとすると、もしかしたら、うまくいけば、ほんの、ほんの、ほんの少し、それ以前の自分と変化しているかもしれないのです。



※誌面の都合上、抄訳掲載となっています。インタビュアー全文並みに英語原文はこちらからご覧ください。



## 七夕

たなばた

7月7日

「手紙なんてちょっとおおげさかな。」でも、感謝やお礼、ともに喜び合うお祝いの気持ちなど、ときには手書きではがきやメッセージカードにちよつと季節の言葉を添えて送ってみてはいかがでしょう。か。折々の季節のごあいさつをご紹介します。



梶の葉飾り

## 七夕の由来

七夕は五節句の一つ（五節句については本稿の参照）。もとは中国の伝説の天の川を隔てた、織姫と彦星が年に1回出逢う恋物語が由来です。奈良時代の貴族社会に伝わった七夕は、当初は織物技術の向上を乞い願う儀礼でした。それがやがて書や詩歌をはじめ、技芸全般の上達を願う行事へと展開していきます。京都の冷泉家では、貴族たちの七夕の過ごし方を今に伝える「乞巧奠（きこうでん）」という行事が、今も行われています。

## 短冊の前身「梶の葉飾り」

七夕といえば、願い事を書いた五

## 【カードの文例】



〈白麻地 七夕文 友禅染 帷子〉

色の短冊を笹に吊るす様子を思い浮かべます（北海道などの寒冷地では柳）。

るのですね。

## 七月は「文（ふみ）の月」

江戸時代の寺子屋では、子どもたちが書の上達を願う七夕の朝に梶の葉と清書用の短冊に文字を書いたもので、これが短冊の笹飾りの始まりとも。時代時代で様々な要素が加味され、アレンジが加わっていくのが風習の面白いところです。七月は、七夕に際して文（ふみ）を書く月であることから「文月」とも称されます。短冊に願いを託すのはもちろん、季節の風物詩になぞらえ、普段はメールで済ます相手に直筆のメッセージを書いてみるのも風流ですね。

## Season Greetings vol.20

## 七夕に最適な絵はがき



〈名所江戸百景 市中繁栄七夕祭 歌川広重〉



〈摺下絵和歌巻〉本阿弥光悦



季節のおすすめ絵はがき

美術はがきソムリエからの 定期便

## 琳派—継承の美

定期便シリーズは、こちらから！



●毎月〈ふみの日〉に絵はがき8枚を6ヶ月間お届けします。

●月々わずか 1,000 円（税・送料込）

■半年間 6,000 円：月々 1,000 円（税・送料込）× 6 ヶ月※

●今回も特典が盛り沢山！

①毎回、琳派の世界をやさしく解説した〈特製ブックレット〉付き

②全6回一括払いでのお申し込みの方にオリジナル文香（非売品）をプレゼント（先着 100 名様）

③さらにもれなく2大プレゼント

◆初回お届け月にオリジナル〈琳派年表・用語集〉

◆最終お届け月に、「抗ウィルス」「抗菌」「消臭」機能がある〈琳派柄 PHONE STICKER〉（定価 385 円）をプレゼント

※途中解約はいつでも可能です。月々の都度払いはクレジットのみとなります。くわしくは専用サイトをご確認ください。

毎月ふみの日に届く●「美術はがき」のある暮らし

美術はがきソムリエからの 定期便

第3弾

## 琳派—継承の美

3



2



1



1 NEW 〈流水四季草花図〉酒井抱一  
2 〈四季草花図（部分）〉神坂雪佳  
3 NEW 〈芥子図〉伊年印 ほか5作品

半年間6回お届けのミニシリーズ！

美術はがきソムリエ 増尾麻黄



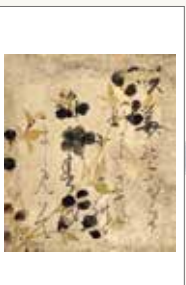
6



5



4



4 NEW 〈色紙貼付桜山吹図より色紙部分〉書：本阿弥光悦 / 画：俵屋宗達  
5 〈重要文化財 白象図（左）〉俵屋宗達  
6 NEW 〈松島図（右隻）〉俵屋宗達 ほか5作品

美術はがきソムリエ 安野美奈子



美術はがきソムリエの私たちが自信を持って選びました！

## ●今後のラインナップ

9月 〈琳派の水墨 ～墨と筆の表現～〉

10月 〈花ひらく琳派 ～尾形光琳と乾山〉

11月 〈受け継がれる意匠 ～草花図—変奏の系譜～〉

12月 〈江戸琳派 ～酒井抱一と鈴木其一～〉

※定期便第1弾とはすべて異なる商品を収録しています。  
※内容は予告なく変更になる場合があります。

増…ご好評いただいている《美術はがきソムリエから定期便》の第3弾がスタートします！今シリーズのテーマは、お待ちかね琳派です。安…琳派作品は、日本人のDNAに組み込まれているというか、純粋に素直に「美しい！」と感じちゃいます。増…そのお馴染みの《琳派》ですが、6回に渡って様々な切り口でご紹介しますよ。安…ワクワク！楽しみです。増…「飾る」要素が強い琳派作品には、屏風仕立ての作品も多いですが、じっくりその良さを楽しんでいただけるよう、大画面が人気の便利堂特製「長型はがき」が毎号入っているものこのシリーズのウリです（6回計で14枚！）。安…お得すぎ！ 通常のはがきよりお高いですが、いいんですか？増…いいんです！ お値段据え置き、しかも収録作品の約半分はこのシリーズを機に制作した新作はがきですよ。安…さらに今回も特典が盛りだくさん！増…手紙用、コレクション用、そして学びとしても《琳派 継承の美》をお楽しみください！





# はー京都

「贈っても、使っても、飾っても」楽しい京都みやげの新定番



市内20か所のサテライトショップで  
各1種の〈京都はん〉を販売中

〈京都はん〉まち歩きMAPで  
京都めぐりをしよう！

さまざまな顔を持つ〈京都はん〉は全20種類。市内20店舗のサテライトショップにて各1種類の〈京都はん〉を販売しています。全種を集める京都めぐりもよし、お気に入りの1枚を求めて訪ねてもよし。各店であなたとの出会いをお待ちしています。サテライトショップ情報を掲載した専用スマホ地図「〈京都はん〉まち歩きMAP」をご用意しています。

便利堂本店では全種、公式オンラインでは〈舞妓はん〉〈京都タワーはん〉の2種が購入いただけます。



【特集】おすすめの新商品①  
全20はん 各一三二〇円

京都便利堂が京都在住のアーティスト、ツペラツペラとコラボレーションした新しいカードシリーズ。『京都のさまざまなもの』をモチーフにツペラツペラが描き下ろしたイラストを便利堂独自のカラーコトタイプ技術でプリントした「贈っても、使っても、飾っても」楽しい京都みやげの新定番です。〈京都はん〉の「はん」は「版画」と京ことばの敬称「はん」を掛けています。

京都便利堂 × tupera tupera

photo: Shingo Mitsuno

tupera tupera

亀山達矢さんと中川敦子さんによるユニット。絵本やイラストレーションをはじめ、TVや舞台、空間のアートディレクションなど、様々な分野で幅広く活動している。絵本『しろくまのパンツ』『パンダ銭湯』など著書多数。NHK Eテレ「ノージーのひらめき工房」のアートディレクションも担当。



【特集】おすすめの新商品②

美術はがきソムリエの私たちが  
自信を持って選びました！

現在3コースをご用意。  
お好みをお選びください！



増尾麻黄(ますお・あさぎ)  
京都便利堂直営ショップスーパーバイザー。絵はがきを通して堅苦しいイメージがある美術品や美術の世界を身近に感じてもらえると嬉しいます。

〈美術はがき定期便〉は、私たちが毎月テーマを決めて、それにピッタリな絵はがきを選んで、お得なセット価格で皆さまにお届けする趣向です。

絵はがきを使う派、コレクション派、飾る派はもちろん、美術には興味があるけど詳しくない、という方にも、ちょっとした「学び直し」の機会になればいいと思います。

税込、送料込。

いつでも解約できます！



安野美奈子(やすの・みなこ)  
京都便利堂本店店長。ご来店の際は、店頭にはない絵はがきもご提案させていただきます。お気軽にご相談ください。

便利堂の絵はがきは千種を超えますから、自分で選ばないような、思いがけないものが届く楽しみもありますね。

お届けした絵はがきをきっかけに「今度は本物を見に行こう」と旅が始まるかもしれない。この定期便がそんな出会いの機会になれば素敵です。

※定期便各コースはすべて異なる商品を収録しています。  
※内容は予告なく変更になる場合があります。

●毎月のお届け内容：コロタイプ絵はがき〈季趣五題〉を含む  
絵はがき 10枚＋特製ブックレット



毎回〈季趣五題〉  
(定価385円)  
が必ず1枚入っ  
ています。

付録として、お届け  
作品をやさしく解  
説したブックレット  
が毎号ついてくる！

●特典が盛りだくさん

もれなく、11月に〈わたしだけの絵はがきカレンダー 2026〉(定価300円)、最終お届け月に、絵はがき全120枚が収納できる〈定期便特製コレクションボックス〉をプレゼント

さらに一括払いでのお申し込みの方に〈ワイヤー絵はがき立て〉(629円)をプレゼント(先着100名様)



通常合計価格 1,675円 / 20,100円のところ

都度払い 1,200円 / 一括払い 14,400円

■1年間14,400円：月々1,200円(税・送料込) × 12ヶ月

毎月1回  
全12回  
1年コース

●ラインナップ

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1月 〈よき塩梅〉       | 9月 〈秋の夜長に〉      |
| 2月 〈桜梅桃李〉       | 10月 〈はらぺこ美術めぐり〉 |
| 3月 〈春のうたげ〉      | 11月 〈烏兔匆匆〉      |
| 4月 〈清明〉         | 12月 〈はなむけの一葉〉   |
| 5月 〈青時雨〉        |                 |
| 6月 〈うつうつそう〉     |                 |
| 7月 〈清々しい「青」〉    |                 |
| 8月 〈夏バテを吹き飛ばす！〉 |                 |

毎月ふみの日に届く  
「美術はがき」のある暮らし

美術はがきソムリエからの  
定期便

※途中解約はいつでも可能です。  
月々の都度払いはクレジットのみとなります。  
くわしくは専用サイトをご確認ください。



●毎月のお届け内容：  
絵はがき 8枚＋特製ブックレット



付録として、お届け  
作品をやさしく解  
説したブックレットが  
毎号ついてくる！

●特典が盛りだくさん

もれなく、初回お届け月にオリジナル〈浮世絵年表・用語集〉、最終お届け月に、絵はがきが収納にピッタリ〈浮世絵A5変形クリアファイル〉(定価385円)をプレゼント

さらに一括払いでのお申し込みの方に〈プッシュピン式絵はがき立て〉をプレゼント(先着100名様)



通常合計価格 1,180円 / 7,080円のところ

都度払い 1,000円 / 一括払い 6,000円

■半年間6,000円：月々1,000円(税・送料込) × 6ヶ月

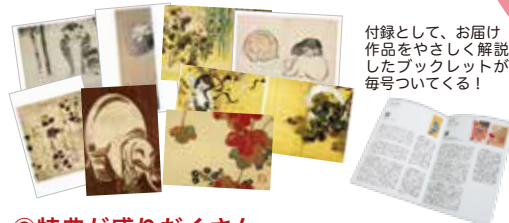
●ラインナップ

- |                                |
|--------------------------------|
| 1/7月 〈美人画クロニクル ～春信、歌麿から英泉へ～〉   |
| 2/8月 〈北斎と広重 ～200年前の日本の風景〉      |
| 3/9月 〈掌の芸術 ～摺物と版本の魅力～〉         |
| 4/10月 〈幕末から明治へ ～国芳・晩斎・芳年と新版画～〉 |
| 5/11月 〈ゆるかわ動物とおもちゃ絵の世界〉        |
| 6/12月 〈歌麿と写楽 ～仕掛け人・葛屋重三郎～〉     |

浮世絵だけの深掘り半年プラン  
浮世絵の美

毎月1回  
全6回  
半年コース

●毎月のお届け内容：長型はがき(6回計14枚)を含む 絵はがき 8枚＋特製ブックレット



付録として、お届け  
作品をやさしく解  
説したブックレットが  
毎号ついてくる！

●特典が盛りだくさん

もれなく、初回お届け月にオリジナル〈琳派年表・用語集〉、最終お届け月に、「抗ウィルス」「抗菌」「消臭」機能がある〈琳派柄PHONE STICHER〉(定価385円)をプレゼント

さらに一括払いでのお申し込みの方にオリジナル文香(非売品)をプレゼント(先着100名様)



通常合計価格(平均) 1,273円 / 7,640円のところ

都度払い 1,000円 / 一括払い 6,000円

■半年間6,000円：月々1,000円(税・送料込) × 6ヶ月

●ラインナップ

- |                              |
|------------------------------|
| 1/7月 〈受け継がれる意匠 ～金と色彩～〉       |
| 2/8月 〈琳派の源流 ～本阿弥光悦と俵屋宗達～〉    |
| 3/9月 〈琳派の水墨 ～墨と筆の表現～〉        |
| 4/10月 〈花ひらく琳派 ～尾形光琳と乾山〉      |
| 5/11月 〈受け継がれる意匠 ～草花図一変奏の系譜～〉 |
| 6/12月 〈江戸琳派 ～酒井抱一と鈴木其一～〉     |

毎月1回  
全6回  
半年コース

琳派だけの深掘り半年プラン  
琳派—継承の美





## 京都便利堂本店

お盆期間(8月14・15・16日)も通常営業にてお待ちしております。

便利堂本社1Fには、美術商品を取り揃えた京都便利堂本店を開設しております。ぜひ京都にお越しの際はお立ち寄りください。

【営業時間】 10:00～19:00

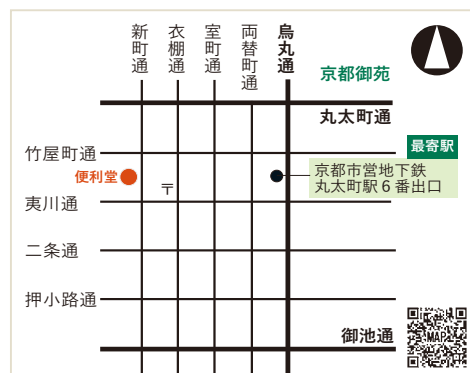
【定休日】 日・祝日

【Telephone】 075-231-4351(代表)

Instagram@kyoto.benrido

X@kyotobenrido

facebook@kyotobenrido.shop



### 【アクセス】

〒604-0093

京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町 302 番地

〈公共交通機関でお越しの方〉

- ・市営地下鉄烏丸線「丸太町」下車 ⑥番出口より徒歩7分
- ・市バス 「文化庁前・府庁前」下車徒歩5分



〈お車・タクシーでお越しの方〉

- ・京都駅から15分、お客様駐車場あります。
- ・タクシードライバーに「新町通り夷川(えびすがわ)上がる」とお伝えください。

## コロタイプギャラリー

### 便利堂コロタイプギャラリー〈夏秋季〉企画展示

#### ①第13回社員ワークショップ展 ②マイケル・ケンナ展 ③法隆寺金堂壁画複製展

京都便利堂本店がある便利堂本社には、〈コロタイプギャラリー〉が併設されています。今年の夏秋季企画展は、3つの展示を行います。特に6月16日からの《法隆寺金堂壁画原寸大複製》展では、全12面の壁画複製が一堂に展観されます。

#### 〈第13回コロタイプ ①ギャラリー1 手刷りプリントのおもしろさ〉展



会期：① 2025年6月16日(月)～7月12日(土) / ② 7月14日(月)～9月27日(土)

#### 〈北海道・四国 ―ポートフォリオより〉 ②ギャラリー1 Michael Kenna (マイケル・ケンナ)



#### 金堂壁画原寸大撮影90周年記念 ③ギャラリー2 〈法隆寺金堂壁画原寸大複製全12面〉展



会期：2025年6月16日(月)～11月8日(土)

開廊：10:00～12:00/13:00～17:00 休廊：日・祝日 入場：無料